

スノーボード初心者時の体験がスノーボード・コミットメントの形成に及ぼす影響

吉沢 歩 (筑波大学)

1. 目的

レジャー白書 (2017) によると、スノーボード人口は、最盛期を迎えた 2002 年の 540 万人と比較すると、現在は 250 万人とその人口は半減しており、スノーボード人口の確保は喫緊の課題である。スノーボード実施者を年代別に見てみると、20 代が最も多く、年代が上がるにつれて減少している。このことから、生涯を通じたリピーターになる可能性がある 10 代、20 代、初心者の継続がスノーボードの普及には必要である。

このような、スポーツ行動の実施や継続に関連すると考えられている概念にスポーツ・コミットメントがあり、コミットメントの程度がスポーツの実施頻度や継続意図に影響を与えることが先行研究により明らかにされている。また、コミットメントは過去のスポーツ体験から影響を受けることが指摘されている。本研究では、過去の体験である初心者時の体験に着目し、スノーボード初心者時の体験が、スノーボード・コミットメントの形成に影響を及ぼしているのかを明らかにすることを目的とした。

2. 方法

- 1) 対象者：男女 230 名 (男性 153 名、女性 63 名)
- 2) 調査内容：①フェイスシート、②スノーボード・コミットメント尺度、③スノーボードの内的体験尺度 (初心者時の内的体験について因子分析を用いて独自に作成した) について調査した。
- 3) 手続き：機縁法によってメールで依頼した他、各種 SNS を使用し、Google フォームを用いて調査を行った。調査期間は 2020 年 9 月 26 日～10 月 31 日であった。

3. 結果と考察

スノーボード初心者時の内的体験とスノーボード・コミットメント得点の関連について明らかにするために相関分析を行なった。コミットメント得点と「達成感因子」、「困難因子」、「自然因子」との間にそれぞれ有意な相関が認められた。コミットメン

ト得点との相関係数の関係の程度は、「達成感因子 ($r=.269, p<.01$)」、「困難因子 ($r=.213, p<.01$)」、「自然因子 ($r=.303, p<.01$)」であり、それぞれ低い相関関係が認められた。以上の結果から、小さいながらコミットメント得点と内的体験との関連が推察された。

そこで、さらに内的体験とコミットメント得点の関係を検討するために、内的体験の 4 因子それぞれを上位群、下位群に群分けを行い、コミットメント得点の平均値に対して t 検定を行なった。その結果、「達成感因子」、「困難因子」、「自然因子」の 3 因子について有意差が認められた (それぞれ両側検定： $t(214)=3.45, p<.001$ 、 $t(214)=3.71, p<.001$ 、 $t(214)=3.69, p<.001$)。有意差が認められたいずれの因子においても、上位群においてコミットメント得点が高い結果となった。

表 1 初心者時の内的体験によるコミットメント得点比較

因子	群	M	SD	t 値
達成感	上位群 (n=108)	59.51	15.32	3.45***
	下位群 (n=108)	51.75	17.68	
困難	上位群 (n=111)	59.68	16.86	3.71***
	下位群 (n=105)	51.35	16.05	
恐怖感	上位群 (n=106)	57.36	16.21	1.48 n.s.
	下位群 (n=110)	53.96	17.56	
自然	上位群 (n=103)	59.96	15.66	3.69***
	下位群 (n=113)	51.68	17.19	

*** $p<.001$

4. 結論

本研究の結果から、初心者時における内的体験の「達成感因子」「困難因子」「自然因子」の 3 因子の体験がコミットメントの形成に影響を及ぼすことが示唆された。したがって、初心者時の体験においては、達成できる技術習得と同時に、ある程度の困難をとまなう内容がコミットメントの形成を促進することが推察される。さらに、単にスノーボードを体験するだけでなく、自然に目を向け、自然を満喫することが、スノーボードのコミットメント形成を促進することが明らかになった。